

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2015年10月28日

No.3

組合：この間の組合員の苦勞に対して真摯に応えよ！
会社：組合の主張は重く受け止めて今後交渉する

～2015年度 年末手当第3回交渉報告～

中央本部は、本日13時30分より第3回年末手当交渉を行ない、要求の根拠を明らかにし、この間の経営姿勢についていたしました。

【要求の根拠】

- ①職場では要員需給が逼迫している中で、臨時列車運行や災害対応などを組合員は全力で担うなど、これまでとは比べ物にならない苦勞の中で業務を遂行している。一方で貨物会社の現状を悲観し、将来に不安を抱いた若年退職が増加傾向にある。更に物価高騰や手当の低額回答により可処分所得は減少し、組合員の生活は一層厳しい状況におかれている。
- ②平成27年度上半期の鉄道事業収入は好調であったと言われているが、このことは貨物労組組合員の努力の結果である。これまでの収入状況を踏まえれば支払い能力は十分にあり、努力に対する還元として要求の満額回答という具体的な形で示すこと。
- ③労働組合の立場から黒字化に向けた努力を行っている。その原動力は組合員のモチベーションであり、そのモチベーションの更なる向上のためには、職場で努力している組合員への公正な成果の配分・還元が不可欠である。安全確立と安定輸送の確保に昼夜を問わず奮闘する組合員の努力に対し、「生活給」としての年末手当を支払い経営責任を果たすこと。

【要求の根拠に対する会社の考え方】

- ①この間、非常に要員需給が厳しい中で臨時列車や災害対応へ対応していただいたことについて、改めて感謝を申し上げる。10月26日現在、下期計画に対して対計画99.4%となっている。今週に入り輸送量が落ちてきているがほぼ計画通り推移している。
- ②年末手当を含めた会社として将来展望を示し、若年退職の増加に歯止めをかけるべきであるとの主張は真摯に受け止める。期末手当における生活給の重みは会社として認識し、交渉に臨む。

会社の考え方に対し、中央本部は以下の主張を行ないました。

- ①技術を持った中間層が、若年退職の道を選択している現状を考えれば、社員のモチベーション向上を図り、要員の流出を食い止める策を講じることは経営陣の責任である。欠員状態では鉄道事業部門の黒字化は実現出来ないことを認識すること。
- ②この間、会社が生活給の考え方を一方的に変えたことに社員が失望した結果がこの現状を引き起こしている。そのことを経営陣が自覚しなければ先には進めない。収入動向でも明らかになっているが、組合員の努力の結果が数字に表れている。相当な苦勞を強いている組合員に対して会社として精一杯応えるべきである。
- ③フィードバックミーティングは組合員には実施しているが、経営陣は未だに実施していない。経営陣の感覚を疑う。経営陣は職場で働く組合員に思いをはせて、将来を見据えて誤りの無い判断を行なうことを主張しました。

これに対して会社は、組合の主張は重く受け止めて、次回の交渉に会社としての考え方を示すことを明らかにして交渉を終了しました。中央本部は職場の闘いと結合して、次回の交渉に臨むこととします。

次回、第4回交渉は、11月6日（金）です。